

最上川上流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布

菅原哲文

1 はじめに

本稿では、最上川上流域、米沢盆地や長井盆地を中心とした地域の縄文時代中期から後期前葉にかけての遺跡分布と時期的な変遷について検討を行う。以前、最上川中流域の縄文時代中期から後期前葉における遺跡分布の検討を行った（菅原 2014）が、縄文中期初頭から中葉にかけての遺跡数の増加と拠点集落の成立、中期末から後期初頭にかけての遺跡の急激な減少と集落規模の縮小などの傾向がうかがわれた。最上川上流域でも同じような様相が想定されるが、実際の遺跡分布の動向について検討したい¹⁾。

2 時期区分について

縄文時代中期の時期区分であるが、最上川上流域についても大木式土器の編年に基づいて時期区分を行うこととする。中期大木式は、大木 7a・7b・8a・8b・9・10 式が設定されており、時期区分はこれに従う。最上川上流域では、時期的・地域的特色として中期前葉に北陸方面の新保・新崎式土器が伴い、中期中葉には少量ながら馬高式土器、いわゆる火災土器が見られる。小国盆地は地理的に新潟平野に近く、中期前葉では北陸系の土器が主体を占め、大木式土器は客体的な位置である。北陸系土器の時期についてはそれに並行すると考えられる大木式土器の型式で遺跡の時期を記載することとした。後期前葉の時期区分については、関東地方の堀之内 1 式・2 式に併行する型式として、南境 1 式、2 式を採択して対応する²⁾。なお、当地域の後期初頭から後期前葉にかけての土器であるが、太平洋側でみられる南境式と類似するものは主体的ではない。北陸方面の三十稲場式土器や関東方面の堀之内 1・2 式土器に類する土器が比較的認められる。また福島方面の綱取式土器、僅かながら称名寺式土器も出土している。

3 対象とする地域と研究の動向

最上川流域の縄文時代遺跡分布や領域の先行の研究として、佐藤禎宏氏は県内の縄文時代中期の遺跡分布を検討し、分水嶺と水系を基準に県内の縄文時代の集団領域を想定した（佐藤 1981）。縄文時代の最上川流域を、7 つの中遺跡群と 21 の小遺跡群に区分した。最上川上流域については、Ⅵ米沢盆地周辺部、Ⅶ小国盆地周辺部を設定し、Ⅵ地域は、A 屋代川流域、B 松川・白川流域、C 長井盆地周辺部に細別した領域設定を行った。

小林圭一氏は、最上川流域の庄内・最上・村山・置賜の各地域において、縄文時代後晩期の遺跡分布と立地の傾向について分析を行っている（小林 2001）。

本論では先行する研究をふまえ、遺跡分布の領域について時期毎の分布傾向と変遷、領域内の遺跡の関係を検討したい。分析対象とする地域は最上川上流域の米沢盆地、長井盆地と周辺部、また最上川流域ではないが、日本海に流れる荒川流域となる小国盆地についても分析対象に含めた。分析する遺跡の所在する市町村は、置賜地方の 8 市町村（米沢市・南陽市・高畠町・長井市・白鷹町・飯豊町・川西町・小国町）であるが、川西町においては中期から後期前葉にかけての詳細時期が判明する遺跡が把握できなかったため分析対象から外した。

4 最上川上流域の遺跡数と立地傾向

最上川上流域の置賜地方 7 市町村の縄文時代中期および後期前葉の時期の遺跡において、土器型式での時期把握が可能な遺跡、おおまかな型式把握が可能な遺跡を対象とし、所在地・地形・標高・帰属する河川流域・細別時期・遺構・遺物の概要について表 5～11 に記した³⁾。掲載遺跡数は 164 遺跡で、県で登録されている遺跡が主である。県で未登録であるが市町村の発掘調査報告書などで掲載された、時期や所在地が特定できる遺跡も採録した。中期、後期など大別時期しか判明しない遺跡は分析対象から除外した。

表 1・図 1 は、最上川上流域の時期別の縄文遺跡数を示したものである。表 1 上は中期前葉（大木 7a・7b 式

期)・中葉(大木8a・8b式期)・後葉(大木9・10期)・後期前葉(後期初頭・南境1式・南境2式期)の大別時期での遺跡数、表1下は型式区分で集計した遺跡数である。遺跡の時期は、報告で大木7式、8式など細別型式が表記されていないものなどは前葉・中葉などに含めているので、大別時期の対象遺跡数が多くなっている。当地域の傾向であるが、大木7a式期から大木9式期にかけて遺跡数の増加が認められ、特に大木8b式期から9式期にかけての増加が目立ち、大木9式期が遺跡数のピークとなる。実際は、中期中葉として登録され細別型式が不明の遺跡が比較的存在するため、8a・8b式期の遺跡数が表中の数より多くなる可能性がある。前稿(菅原2014)での最上川中流域の傾向では、大木8b式期が遺跡数のピークであったが、上流域ではピークが1型式後ろにずれる。大木10式期では減少に転じ、後期初頭では急激な減少が認められる。南境1式期にかけては、やや遺跡数が回復するが、南境2式期は遺跡数が最も少なくなる。大別時期の推移を見ると、最も遺跡数が多くなるのは中期後葉で、後期前葉は減少に転じる。

表2は、中期初頭から後期前葉にかけての遺跡の消長を示した⁴⁾。大木7a～7b、7b～8a、8a～8b式期にかけては、出現する遺跡と継続する遺跡が同程度で大半を占め、消滅する遺跡は比較的少ない。大木8b～9式期にかけても同様で出現する遺跡が最も多く、次いで存続する遺跡が多く、消滅する遺跡は少ない。9式～10式になると、継続する遺跡が半数近くを占め、次いで消滅する遺跡が多く、出現する遺跡は少なくなる。大木10式期～後期初頭にかけては、消滅する遺跡が最も多く、継続・出現する遺跡の割合が少なくなる。後期初頭～南境1式期は、消滅する遺跡の割合が減りやや安定する傾向がある。南境1式期～南境2式期にかけては再度消滅する遺跡の割合が増え、出現する遺跡は僅少である。

表4・図2は、最上川上流域の地形別遺跡立地を示したものである。遺跡の地形について、山形県刊行の土地分類基本調査に示す地形図に従い、山地・丘陵・台地・段丘・低地などに分類し、各遺跡の立地について時期的傾向を検討した。全体的な傾向として、扇状地などの低地に立地する遺跡の割合が各々50%前後を占める。大木7a式期では、山地や丘陵地の割合が約41%であるが、大木7b式期では25%程度と減少し、台地・段丘や低地

の利用が増える。8a～8b式期にかけては、少し山地や段丘の利用が増える。8b～9式期はあまり内容に変化はない。大木10式期になると、山地の利用が減少し、丘陵地や低地の利用が増える。後期前葉は、山地～丘陵地の割合が再び増加し、台地・段丘や低地の割合が少し減少する。

表3は、時期別の遺跡標高分布を示した。どの時期を通じても標高201～250、251m～300mの範囲が最も遺跡の分布が多く認められる。大木7a式期では251m～300mの範囲に分布する遺跡の割合がやや高い。また大木10式期は大木9式期よりも301mを超える範囲の遺跡の割合が少なく、200m以下の遺跡の割合がやや多くなる。

5 各時期の遺跡分布の様相

最上川上流域の時期別遺跡分布を検討する。図3に最上川上流域の中期前葉から後期前葉にかけての遺跡分布を示した。遺跡の分布傾向を把握し最上川上流域において、いくつかの地域区分を設定する。

最上川上流域は長井盆地とさらに上流に米沢盆地が広がる。米沢盆地は南北約24km、東西約18kmの南北に広い菱形状で、西に朝日山地、東は奥羽山脈、南は標高2000m級の吾妻連峰に囲まれる。また、南の桧原峠、板谷峠などが福島や会津方面との経路、西の二井宿峠が太平洋側への経路となっている。以下に細分した地域区分について述べる。

A 米沢盆地南半部―最上川上流で吾妻連峰から源流が生じる松川ととそれに合流する大樽川、鬼面川、羽黒川、梓川などの河川によって形成される地域である。各支流の流域沿いや、山間部から平野に入った地点に遺跡分布が密に認められる。盆地西側より、A1- 鬼面川・大樽川流域、A2- 松川流域(松川支流となる羽黒川流域も含める)、A3- 盆地東部の梓川(天王川)流域にそれぞれ遺跡の分布域が認められる。

B 屋代川流域―東側の奥羽山脈から西流し平野部で吉野川に合流する。また奥羽山脈を二井宿峠で越えて太平洋岸へ至る経路もある。流域沿いに分布する集落遺跡の他に、山地や丘陵地に日向洞窟をはじめとする多くの洞窟・岩陰遺跡が分布する。これらの洞窟遺跡は、キャンプサイトとして断続的に利用されていたと考えられる。

C 米沢盆地北部一南流する吉野川流域と、西側の織機川流域を含む。吉野川流域と織機川流域ではそれぞれの流域で遺跡分布がまとまるように思われる。

D 長井盆地一長井盆地は南北約 20km、東西約 4～5km の細長い形状で、盆地北部では飯豊山地を水源とする白川が最上川に合流する。盆地の西部からは野川をはじめとした河川が東流し最上川に合流する。これらの河川沿いや山地・丘陵地と低地との境界に遺跡の分布が多い。

E 小国盆地及び周辺部一山形県の南西部に位置し、新潟の日本海へ入る荒川とその支流である横川などが流れている。最上川流域には属さない。横川と荒川の合流地域に小国盆地が形成される。時期が判明した遺跡の分布は、横川の上流域、小国盆地に確認される。

図 4～図 7 は、中期の前葉・中葉・後葉期と後期前葉の各遺跡分布を示したものである。なお、遺跡の型式が判別できるように表記した。発掘調査された遺跡が各地域でどのような性格の集落になるのかを推定し、未調査でも出土遺物の内容や継続により遺跡の性格づけが可能と思われるものがあれば触れておきたい。以下、各時期と地域毎に遺跡分布の様相を述べる。

(1) 中期前葉（大木 7a・7b 式期）

当期の遺跡分布を図 4 に示した。大木 7a・7b 式期は、米沢市台ノ上遺跡が広範囲にわたって調査されているが（米沢市教委 1997・2006 他）、その他に集落の全体を把握できる遺跡は乏しい。

A 米沢盆地南半部：大木 7a 式期では、A1 鬼面川流域に成島遺跡（52）、A2 松川流域に台ノ上遺跡（35）、羽黒川流域に普門院遺跡（20）が確認される。A3 梓川流域には山ノ下遺跡（5）・上光田 A 遺跡（54）がある。大木 7b 式期では、A1 地域に前型式から続く成島遺跡、他に窪平遺跡（51）があり、A2 地域は継続して台ノ上遺跡、やや上流に大塚山遺跡（34）、下流には外ノ内遺跡（41）がある。外ノ内遺跡では当期の集落跡が確認された。A3 地域では山ノ下遺跡と上光田遺跡が継続する。

台ノ上遺跡は、前期末から遺跡が存在し、7a・7b 式期を通じて米沢盆地南部の中心集落であると推定される。この時期から大型住居が構築され土偶が盛んに製作されている。また、成島遺跡も同様に前期に集落が営まれており、中期前葉には大量の三脚石器が製作されて

いる。盆地西部の主要な集落と推定される。

B 屋代川流域：7a 式期では、鳥取山洞窟（65）・大立洞窟（71）などがあり、一の沢岩陰（62）などは 7b 式期も利用されている。洞窟遺跡は時期が明らかな遺跡が多いが、この流域の中心となる集落については不明である。

C 米沢盆地北部：吉野川流域を中心に遺跡の分布が認められる。吉野川が扇状地にかかる入口付近には、7a・7b 式期の久保遺跡（81）・7b 式期の宮内小学校敷地内遺跡（83）がある。久保遺跡は中期全般を通じて遺物が確認され、遺構の全容は不明であるが主要な集落となる可能性がある。盆地内部には、7a 式期に諏訪前遺跡（86）、長岡山遺跡（87）、長岡山東遺跡（88）があり、長岡山遺跡や長岡山東遺跡は 7b 式期や以後も存続する。この両遺跡は南陽市による発掘調査が実施されている（南陽市教委 2013）。遺構は不明であるが中期前葉から中葉にかけての遺物がまとまっており、中期前半の土偶が出土している。当地域の主要な集落になると考えられる。

D 長井盆地：中期前葉の遺跡は限られている。7a 式期の遺跡では館之越遺跡（104）・宮遺跡（107）・岡ノ台遺跡（123）があるが、遺跡内容が明らかになっているのは宮遺跡に限られる。7b 式期では、上記の 3 遺跡は継続し、他に西側の山地・丘陵沿いに黒附遺跡（110）・盆地北端に中十王 1 遺跡（127）がある。宮遺跡は中期前半の土偶などが出土しており（長井市教委 2003）、7b 式期から集落規模の拡大が想定される。

E 小国盆地及び周辺部：大木 7a 式期の遺跡は、谷地遺跡（160）の他ははっきりしない。大木 7b 式期では、小国盆地に谷地遺跡、墓窪遺跡（163）、横川の上流域に市野々向原遺跡（156）が確認される。谷地遺跡では竪穴住居や集石遺構が検出され、墓域を伴う規模の大きい集落の可能性がある。墓窪遺跡でも 7b 式期の住居跡が検出されている。この地域では北陸系の新保・新崎式土器の出土が卓越している。

(2) 中期中葉（大木 8a・8b 式期）

A 米沢盆地南半部：前時期と比較して遺跡分布の増加が顕著になる。A1 地域では上流より館山 c 遺跡（49）・大樽遺跡（50）・成島遺跡（52）が 8a・8b 式期を通じて認められる。しかしこの時期のこれらの遺跡内容はあまり明らかではなく、集落規模や性格は不明である。A2 の松川流域であるが、盆地の低地部にある台ノ上遺跡（35）

と近隣に存在する太田遺跡(36)・大塚山遺跡(34)・大檀a遺跡(32)・大檀b遺跡(33)で構成される遺跡群と、さらに上流の窪遺跡(28)・前ノ在家遺跡(25)・大洞前遺跡(24)・丹南遺跡(23)などで構成される遺跡群がみられる。台ノ上遺跡はこの時期に最も集落規模や住居数が増加し、大型住居を中心とするような集落の構成が確認される(米沢市教委1997・2006他)。200点を超える土偶や、大量の三脚石器、岩偶なども出土し米沢盆地内の拠点集落であったと考えられる。窪遺跡は松川が山地から扇状地に入った場所に位置する。中期中葉から後葉にかけて継続する集落跡である(米沢市教委1974他)。大木8a式、8b式の竪穴住居跡がそれぞれ一棟確認されている。A3地域であるが梓川上流域に法将寺遺跡(2)、中・下流には野際遺跡(17)・上浅川a遺跡(18)がある。法将寺遺跡は大木8b式期を中心とした竪穴住居、掘立柱建物跡、土坑墓、埋設土器などが検出され(米沢市教委1985・1993)、墓域を伴う当流域の中心集落になると考えられる。上浅川a遺跡では大木8a式期の竪穴住居跡5棟が確認されている(米沢市教委1985)。

B 屋代川流域：屋代川の中流には新太夫遺跡(68)があり8a・8b式期にかけて存続する。竪穴住居跡や埋設土器が確認され、土偶や石棒の出土もみられる(高島町教委2003)。下流には8b式期の石ヶ森遺跡(72)・上流には8b式期の台の畑遺跡(60)・山地や丘陵地には尼子岩陰(58)・神立洞窟(63)などの洞窟・岩陰遺跡が点在する。大谷地に面した日向洞窟(70)もこの時期に認められる。台の畑遺跡は後の時期に集落が拡大すると思われる、太平洋側に至る二井宿峠に近い。

C 米沢盆地北部：吉野川流域では、下流域に長岡山遺跡(87)・長岡山東遺跡(88)があり土偶などの祭祀遺物も出土している。前時期に続きこの流域の主な集落になると考えられる。やや上流北側の段丘沿いには横沢遺跡(85)・上野遺跡(84)・久保遺跡(81)・宮内小学校敷地内遺跡(83)、さらに上流には石畑遺跡(80)がある。久保遺跡と周辺遺跡で主な集落を構成している可能性がある。織機川流域やその西側の山地・丘陵地沿いには漆山遺跡(92)・塩釜遺跡(95)・座須脇遺跡(101)・久保遺跡(100)などが分布するが、内容はあまり明らかではない。

D 長井盆地：白川流域には上流に赤岩遺跡(154)・契約壇遺跡(152)など大木8a式期の遺跡が確認される。中央部には宮遺跡(107)・小桜館(106)がある。宮遺跡は7b～8a式期を中心とした集落と考えられ、竪穴住居跡や竪穴遺構、土坑などが確認されている(長井市教委2003・2005・2006ほか)。盆地中央の西側段丘沿いには黒附遺跡(110)・唐梅遺跡(117)などがあるが内容は不明である。盆地北端部では、最上川両岸の段丘上や丘陵地沿いに当期の遺跡の分布が多い。主な遺跡として貝生川と最上川合流地点に近い石那田遺跡(124)、実淵川と最上川の合流地点に近い小四王原A遺跡(146)がある。石那田遺跡では大木8b式期から9式期と思われる住居跡や遺物が確認されている(白鷹町1977)。

E 小国盆地及び周辺部：大木8a式期では谷地遺跡(160)・墓窪遺跡(163)など小国盆地で遺跡分布が確認される。谷地遺跡は前時期から集落が存続しており、小国盆地内の中心集落と思われる。馬高式土器なども出土している。8b式期に比定される遺跡は不明である。たまたま確認・認識されていないものと思われる。

(3) 中期後葉(大木9・10式期)

A 米沢盆地南部：各小流域で遺跡の分布が密になる。A1地域は、綱木川の上流に大木10式期の烏川4・5遺跡(43・44)が確認される。山間部の小集落と考えられる。大樽川沿いには、上流から塔之原遺跡(46)・龍性院遺跡(48)・吹屋敷(47)・館山c遺跡(49)・大樽遺跡(50)・窪平遺跡(51)などが確認される。大木9式期は集落の内容が判明した遺跡はない。塔之原遺跡は、大木10式期の竪穴住居跡5棟、掘立柱建物跡3棟、墓壙と思われる遺構などが検出されており(米沢市教委1994)、当流域の中心集落跡と考えられる。A2の松川流域であるが、上流に大木9式期の丹南遺跡(23)・木舟遺跡(22)、羽黒川流域にも大木9式期の湯ノ沢遺跡(19)などがあるが、遺構等は不明である。低地の台ノ上遺跡(35)は大木9式で途絶えるが、下流には花沢A遺跡(37)が出現する。大木9・10式期にかけて存続し、大木10式期の竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡2棟、埋設土器などの遺構が確認され、土偶・石棒・石剣などの祭祀遺物が出土する(米沢市教委1988・2007)。集落全容について不明な部分が多いが米沢盆地南部の当期の中心集落になる可能性がある。A3地域であるが、梓

川の中流域西側に多くの遺跡が確認される。大清水遺跡(6)は、大木9・10式期の住居跡が5棟、掘立柱建物跡1棟、埋設土器が検出された(米沢市教委1986)。清水北C遺跡(12)は大木10式期の竪穴住居跡が1棟が確認された(米沢市教委1975・1976)。八幡原b遺跡(14)も大木9～10式期の住居跡3棟、埋設土器が確認された。中小規模の集落があちこちに点在していたものと思われる。

B 屋代川流域:上流では台の畑遺跡(60)、宮下遺跡(59)が主な集落として注目される。台の畑遺跡は大木9・10式期の住居跡が6棟、埋設土器、土坑などが確認された(高島町教委1984)。中期末から後期初めにかけて継続する。宮下遺跡は山形県埋蔵文化財センターによる調査で、大木10式期の竪穴住居跡3棟や埋設土器が確認された(山形県埋文1997)。この他に山地や丘陵地には鳥取山洞窟(65)・一の沢岩陰(62)・日向洞窟(70)などの洞窟・岩陰遺跡が利用されている。一の沢岩陰に隣接する一の沢遺跡(61)では中期末の複式炉が検出されており(高島町1971)、キャンプサイトの的な利用がされていたものと思われる。

C 米沢盆地北部:吉野川の流域であるが、下流の扇状地に百刈田遺跡(90)が出現する。大木9・10式期にかけての竪穴住居跡6棟などが検出された(山形県埋文2010)。長岡山遺跡(87)・長岡山東遺跡(88)も認められるが、中期末は集落規模が縮小し消失するものと思われる。扇状地から山地にかかる位置にある久保遺跡(81)・宮内熊野神社敷地内遺跡(82)・宮内小学校敷地内遺跡(83)は大木9・10式を通じて遺跡が継続する。上流には石畑遺跡(80)がある。中期末の遺構は明確ではないが出土遺物の内容を考慮すれば集落が営まれていたものと思われる(山形県埋文2007)。織機川流域には大木10式期の遺跡分布が多いが遺構の様相は不明である。

D 長井盆地:盆地南端には郡之神遺跡(150)・石箱遺跡(149)がある。石箱遺跡では住居跡(時期不明)や大木10式期の埋設土器群が確認され、墓域をもつ集落であると考えられる(飯豊町教委1980)。盆地中央部西側の段丘沿いには中期後葉の遺跡が多く出現する。野川流域で山間部に入った地点には空沢遺跡(108)がある。大木10式期の小規模な竪穴住居跡1棟や土坑などが確認され、山間部のキャンプサイトや食糧採取場所としての

利用が想定される(山形県埋文2005)。中央部西側の段丘沿いには集落が確認された遺跡がいくつかある。黒附遺跡(110)では、大木10式期の竪穴遺構などが確認されている(長井市教委2011)。長者屋敷遺跡(114)は長井市による調査で、大木10式期を中心とする中期末の竪穴住居跡が15棟、埋設土器、集石遺構、半截木柱遺構などが確認された(長井市教育委員会1979ほか)。問答山遺跡(116)でも大木10式期の竪穴住居跡が2棟(長井市教委2004)、中里B遺跡(115)では中期末から後期前葉の配石遺構が確認されている(長井市教委2010)。盆地北側にも遺跡の分布が多い。最上川右岸の岡ノ台遺跡(123)では大木10式期の竪穴住居跡2棟が調査された(山形県埋文1997)。石那田遺跡(124)は大木8b式期から大木9式期にかけての遺構がある。盆地北端の小四王原A遺跡(146)では大木10式期の住居跡2棟が確認されている(白鷹町1977)。

E 小国盆地及び周辺部:中期後葉の遺跡分布が多くなる。横川上流では野向遺跡(155)・市野々向原遺跡(156)・千野遺跡(157)などがある。野向遺跡では大木10式期の竪穴住居跡が確認された(山形県埋文2000)。山間部の小規模な集落跡と考えられる。小国盆地では、蟹沢遺跡(159)・下野遺跡(161)・墓窪遺跡(163)が主な集落跡である。蟹沢遺跡では中期末から後期前葉にかけての住居跡が26棟報告されている(小国町教委1980)。下野遺跡は中期後葉を中心とする集落跡で大木9・10式期の住居跡が17棟、埋設土器、集石遺構などが確認された(山形県教委1981)。墓窪遺跡では大木10式期で29棟の多数の住居跡が検出されている。中期末は広場を備える環状構成の集落となることが想定されている(山形県教委1982)。

(4) 後期初頭～前葉(後期初頭・南境1・2式期)

A 米沢盆地北部:A1地域では、大樽川流域を中心に遺跡の分布が確認される。綱木川の上流にある烏川4遺跡(43)では中期末から後期の遺構が確認され、烏川5遺跡(44)では石棺墓とされる石組遺構3基(時期は不詳)が確認されている(山形県教委1993)。下流では大樽遺跡(50)を中心に遺跡の分布が多い。大樽遺跡は、米沢市教育委員会による調査を主として、後期初頭や前葉の竪穴住居跡、埋設土器などが確認されており、この流域の中心となる集落と考えられる(米沢市教委1999

他)。また三十稲場式土器の出土が顕著である。A2 地域は前時期と比べ遺跡数が乏しい。盆地南端に大塚山遺跡（34）や館ノ内 C 遺跡（31）などがあるが遺構の内容に乏しい。低地の花沢 A 遺跡（37）では遺構は不明であるが南境 1 式期の遺物が確認されている。A3 地域は比較的当期の遺跡分布が多い。上窪遺跡（1）では南境 1 式期と考えられる墓の可能性のある石組遺構や埋設土器が確認されている。竹井境 a 遺跡（15）、竹井境 b 遺跡（16）では後期初頭から前葉にかけての大型集石遺構、配石遺構、埋設土器などが確認された（米沢市教委 1975・1976・1977）。両遺跡とも後期前葉の土偶が出土し、竹井境 b 遺跡ではハート形土偶や腕輪形土製品なども認められる。当地域の中心となる墓域を伴う集落の存在が想定できる。

B 屋代川流域：屋代川の上流には中期後葉から継続する台の畑遺跡（60）がある。住居跡は不明であるが土坑等の遺構が確認されており（高畠町教委 1984）、三十稲場式土器、称名寺式土器の出土が確認される。日向洞窟（70）などの洞窟遺跡群も引き続き利用されている。

C 米沢盆地北部：遺跡分布が希薄となる。吉野川流域では石畑遺跡（80）が後期前葉を通じて遺跡が存続する。下流の久保遺跡（81）も中期から認められる遺跡である。織機川流域の庚壇遺跡（94）では遺物の出土が確認されるが遺構は不明である。

D 長井盆地：盆地南端の白川流域には町下遺跡（153）・郡之神遺跡（150）、萩生川流域には石箱遺跡（149）がある。町下遺跡では土坑などの遺構（山形県教委 1981）、郡之神遺跡では配石遺構や土坑などが確認され（山形県教委 1979・1993）、石箱遺跡では後期前葉と思われる土偶が出土している（飯豊町教委 1980）。盆地中央部の低地や西側の段丘沿いにはいくつかの遺跡が分布する。中里 B 遺跡（115）では中期末から後期前葉にかけての配石遺構や土坑などの遺構が検出されている（長井市教委 2010）。唐梅遺跡（117）では中期末から後期にかけての配石遺構・墓壇・土坑などが調査され（長井市教育委員会 2010・2011）、墓域が形成されていることが明らかになっている。この遺跡と周囲に後期前葉の集落がまとまって営まれていたものと推定される。盆地北端は、中期末に比べて遺跡数は少ない。中町西遺跡（135）などに主な集落が存在している可能性がある。

E 小国盆地及び周辺部：横川上流では野向遺跡（155）・市野々向原遺跡（156）で後期前葉の土坑などの遺構が確認されている（山形県埋文 2000）。千野遺跡（157）では南境式期の竪穴住居跡 3 棟、敷石住居跡 1 棟、埋設土器、配石遺構などが確認された（山形県埋文 2000）。敷石住居跡は県内に類例がなく、関東方面からの影響が想定される。また出土土器は三十稲場式や南三十稲場式がみられ北陸方面からの強い影響が窺われる。小国盆地では蟹沢遺跡（159）で中期末から後期前葉の住居跡がまとまって確認されており、盆地内の中心となる集落と考えられる。出土土器も強く北陸方面の影響が見られる。

5 まとめ

以上、最上川の上流域における縄文中期から後期前葉にわたる遺跡分布について述べてきた。以下に当地域の傾向についてまとめたい。

中期から後期前葉にわたる最上川上流域の遺跡数は、大木 7a 式～大木 9 式期にかけて増加し、特に大木 8b 式期から 9 式期の増加が顕著である。大木 10 式期から減少に転じ、後期初頭期にかけて大きく減少する。遺跡の標高分布では、最上川中流域と比べると、遺跡分布の標高が時期的に大きく変わる傾向はあまり見えないが、大木 7a 式から 7b 式期にかけての標高分布の低下、大木 9 式期から 10 式期にかけては若干の標高の低下が見られる。中期末から後期初頭の遺跡数の大きな減少は、やはり気候の寒冷化に伴う植生や環境の変異による居住地や生業域の不適化などが反映されているものと考えられる。

各期にわたる遺跡分布であるが、最上川の本流沿いよりも最上川の各支流沿い、河川が平地に入る扇状地の扇頂部や周囲の段丘上、河川の合流地点などが多い。平野部や扇状地の扇央・扇端部は分布が希薄な地域である。

最上川上流域の遺跡分布の領域であるが、最上川に合流する支流域を中心として、支流域に沿った約 10km 内の範囲に収束するように思われる。南北方向にのびる長井盆地の地域区分において、本稿では一括したが、白川流域・野川流域・盆地中央部の西側段丘縁辺、盆地北側の最上川左岸や右岸でおそらく約 5～10km の小遺跡遺跡群が形成されるものと思われる。

また、時期毎に領域内の遺跡数の変動が顕著に見られる地域がある。米沢盆地南部において、A3 の梓川流域は

中期前葉や中葉にかけて遺跡分布が希薄であるが、その一方中期中葉の A2 松川流域では台ノ上遺跡を中心とした拠点集落を中心に遺跡の分布が多い。しかし中期後葉になると松川流域の遺跡分布はやや希薄になり、梓川流域には中小規模の遺跡が多く出現する。後期前葉もこの傾向が続く。小流域にわたって時期的な集落の移動や分散があった可能性も考えられる。

長井盆地も中期前葉の遺跡分布は希薄であるが、中期中葉から後葉にかけて盆地中央部の西側段丘地や盆地北側に遺跡分布が増加する。この地域は米沢市の台ノ上遺跡のような拠点的な大集落の存在よりも中小規模の集落がまとまって分布するような傾向が想定される。

また米沢盆地南部では、遺跡の大まかな時期的推移と関係を把握することができたが、米沢盆地北部や長井盆地の白川流域や北部、小国盆地に入る各河川流域では、開発の関係もあり、地域の中心となる集落や分村的な集落の把握と関係を考察するには至らなかった。今後、これら地域の遺跡内容について理解が進むことを望みたい。

最後に本論をまとめるにあたり、小林圭一氏から地形図の提供や遺跡内容について御教示いただいた。記して感謝申し上げたい。

註

- 1) 最上川上流域に位置する各市町村の遺跡分布については偏在がみられるが、当該各市町村の分布調査の取り組みの多寡や開発の有無に由来すると思われる。埋蔵文化財担当の職員の配置や開発による発掘が比較的行われている地域は、遺跡内容が比較的把握されるが、それ以外の地域は遺跡内容が不詳となっているものが多いため、分析対象から外している遺跡も多い。現時点の情報に基づいた分析であることをお断りしておきたい。
- 2) 小林圭一氏は、山形県の縄文後期前葉の時期区分について堀之内 1 式・2 式に併行して南境式を南境 1 式・2 式に区分することを提唱している。
- 3) 遺跡一覧表の時期の表記であるが、「○」は報告書などでその時期に比定される事を表す。「◎」は、その時期の遺構が存在することを表す。「●」はその時期に住居跡が検出されていることを表す。「-」は細別型式が不詳であることを示す。例えば、中期前葉に比定されるが型式が不詳である際は、7a・7b 式の欄に「-」を入れている。また表の作成にあたり、引用・参考とした報告書や文献について、本来は引用文献の欄に記すべきであるが、紙面の制約もあり、「文献」の欄に略記した。本文中で引用した報告書出典も文献欄に略記した。
- 4) ある遺跡で大別時期のみ把握されている時期で、その前あるいは後について型式が判明している場合（例えば細別型式不明で中期中葉の時期があり、その前の 7b 式、後ろの 9 式に遺跡が存在する場合など）についても集計に含めている。

引用文献

- 佐藤禎宏 1981「山形県における縄文領域論のための基礎作業」『さあべい』第 3 巻・第 3 号 pp.1-22
- 菅原哲文 2014「最上川中流域における縄文時代中期から後期の遺跡分布」『研究紀要』第 6 号 pp.27-48 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 小林圭一 2001「最上川流域における縄文時代後・晩期の遺跡分布」『山形考古』第 7 巻 1 号 pp.21-81

表 1 最上川上流域の時期別遺跡数

時期	中期前葉	中期中葉	中期後葉	後期前葉
遺跡数	37	76	111	59

	中期						後期		
時期	大木 7a	大木 7b	大木 8a	大木 8b	大木 9	大木 10	初頭	南境 1	南境 2
遺跡数	22	27	40	48	81	75	26	38	19

図 1 最上川上流域の時期別遺跡数グラフ

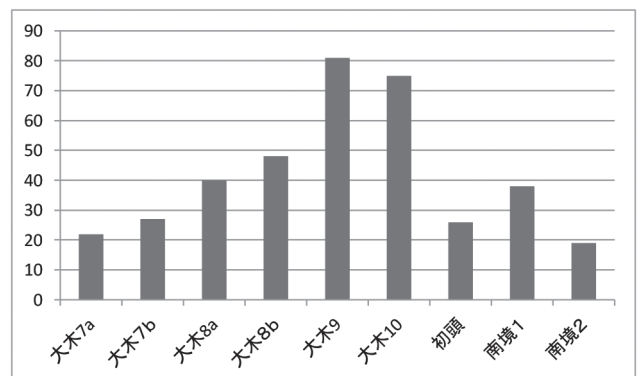
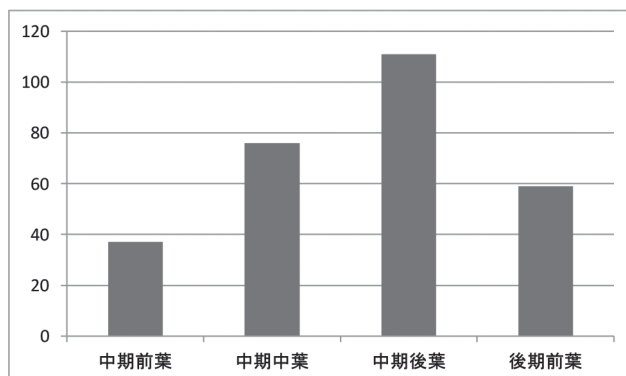


表2 最上川上流域の時期別遺跡消長

	7a～7b	7b～8a	8a～8b	8b～9	9～10	10～後初	後初～南境1	南境1～2
存続	14	18	26	37	50	24	20	18
	40.00%	36.73%	41.27%	36.63%	47.17%	30.77%	45.45%	46.15%
出現	13	21	22	45	25	3	18	1
	37.14%	42.86%	34.92%	44.55%	23.58%	3.85%	40.91%	2.56%
消滅	8	10	15	19	31	51	6	20
	22.86%	20.41%	23.81%	18.81%	29.25%	65.38%	13.64%	51.28%
計	35	49	63	101	106	78	44	39
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

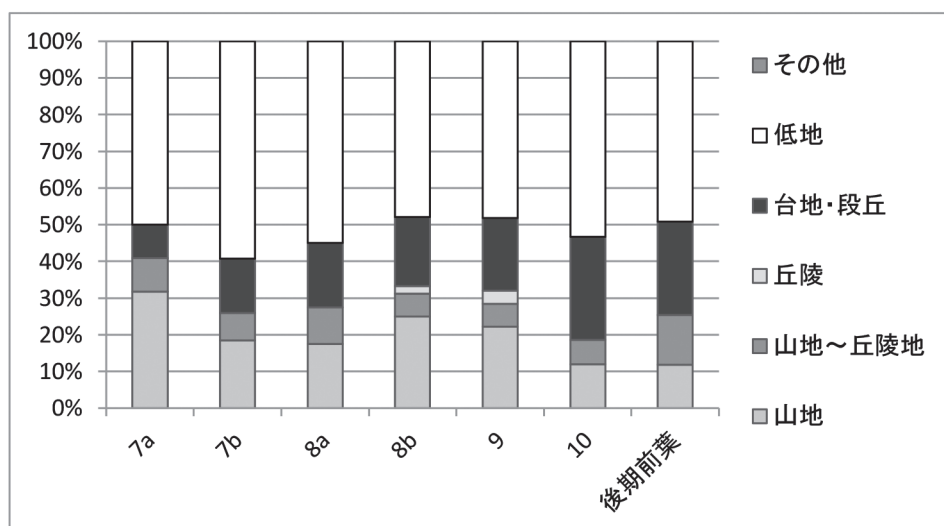
表3 最上川中流域の時期別遺跡標高

	7a	7b	8a	8b	9	10	後期前葉
101～150m	1	3	2	0	4	6	2
151～200m	2	3	4	2	4	4	4
201～250m	7	9	14	20	24	25	19
251～300m	9	9	13	21	33	33	26
301～350m	1	1	4	5	11	4	5
351～400m	1	1	2	1	4	2	0
401～450m	0	0	0	0	0	0	3
451～500m	1	1	1	1	1	1	0
	22	27	40	50	81	75	59

表4 最上川中流域の時期別遺跡立地

	山地	山地～丘陵地	丘陵	台地・段丘	低地	その他	合計
7a	7	2	0	2	11	0	22
	31.82%	9.09%	0.00%	9.09%	50.00%	0.00%	100.00%
7b	5	2	0	4	16	0	27
	18.52%	7.41%	0.00%	14.81%	59.26%	0.00%	100.00%
8a	7	4	0	7	22	0	40
	17.50%	10.00%	0.00%	17.50%	55.00%	0.00%	100.00%
8b	12	3	1	9	23	0	48
	25.00%	6.25%	2.08%	18.75%	47.92%	0.00%	100.00%
9	18	5	3	16	39	0	81
	22.22%	6.17%	3.70%	19.75%	48.15%	0.00%	100.00%
10	9	5	0	21	40	0	75
	12.00%	6.67%	0.00%	28.00%	53.33%	0.00%	100.00%
後期前葉	7	8	0	15	29	0	59
	11.86%	13.56%	0.00%	25.42%	49.15%	0.00%	100.00%

図2 最上川中流域の時期別遺跡立地グラフ



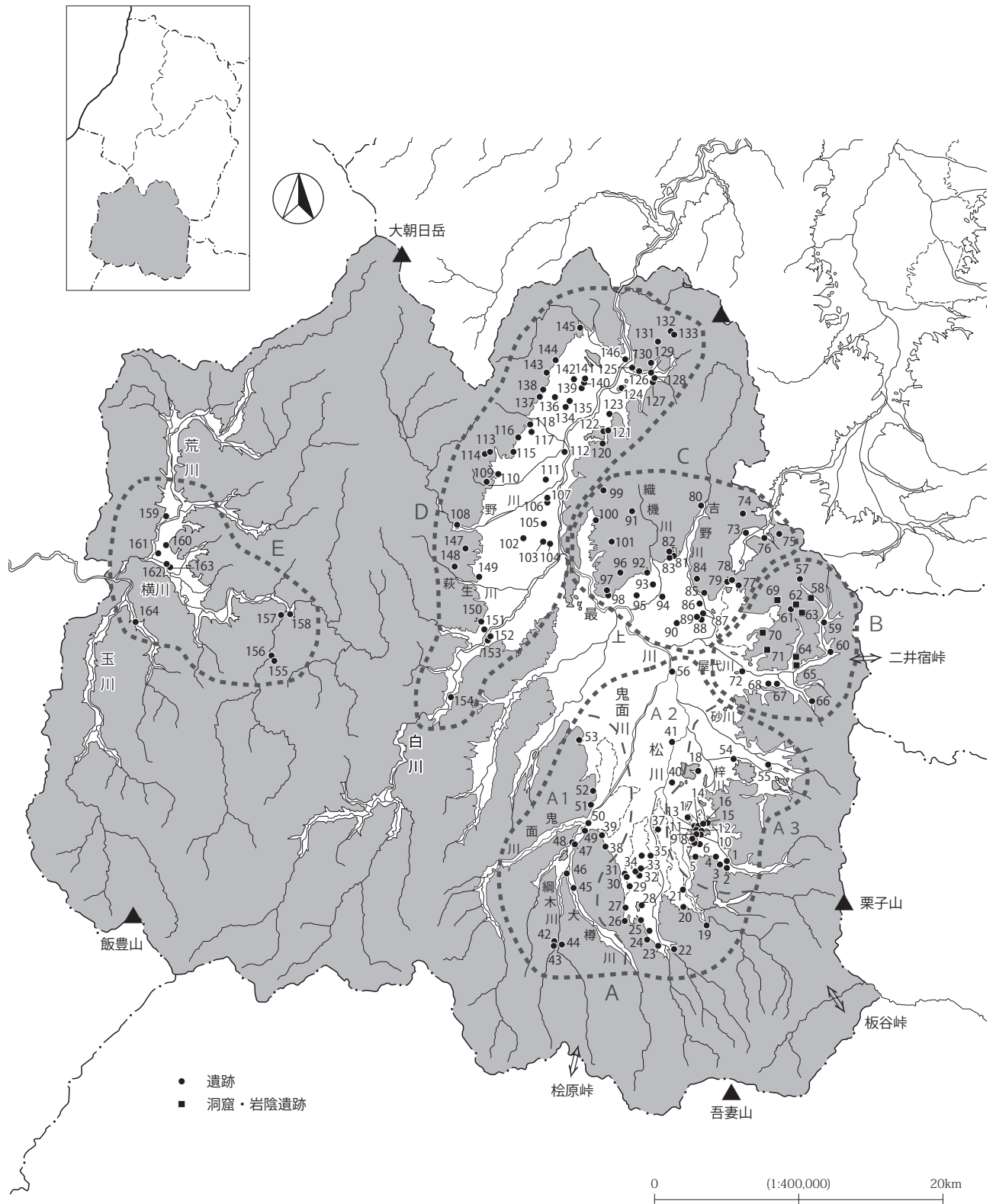


図3 最上川上流域の縄文時代中期から後期前葉の遺跡分布



図4 縄文時代中期前葉の遺跡分布(国土地理院発行20万分の1地形図「仙台」・「福島」・「村上」を使用)

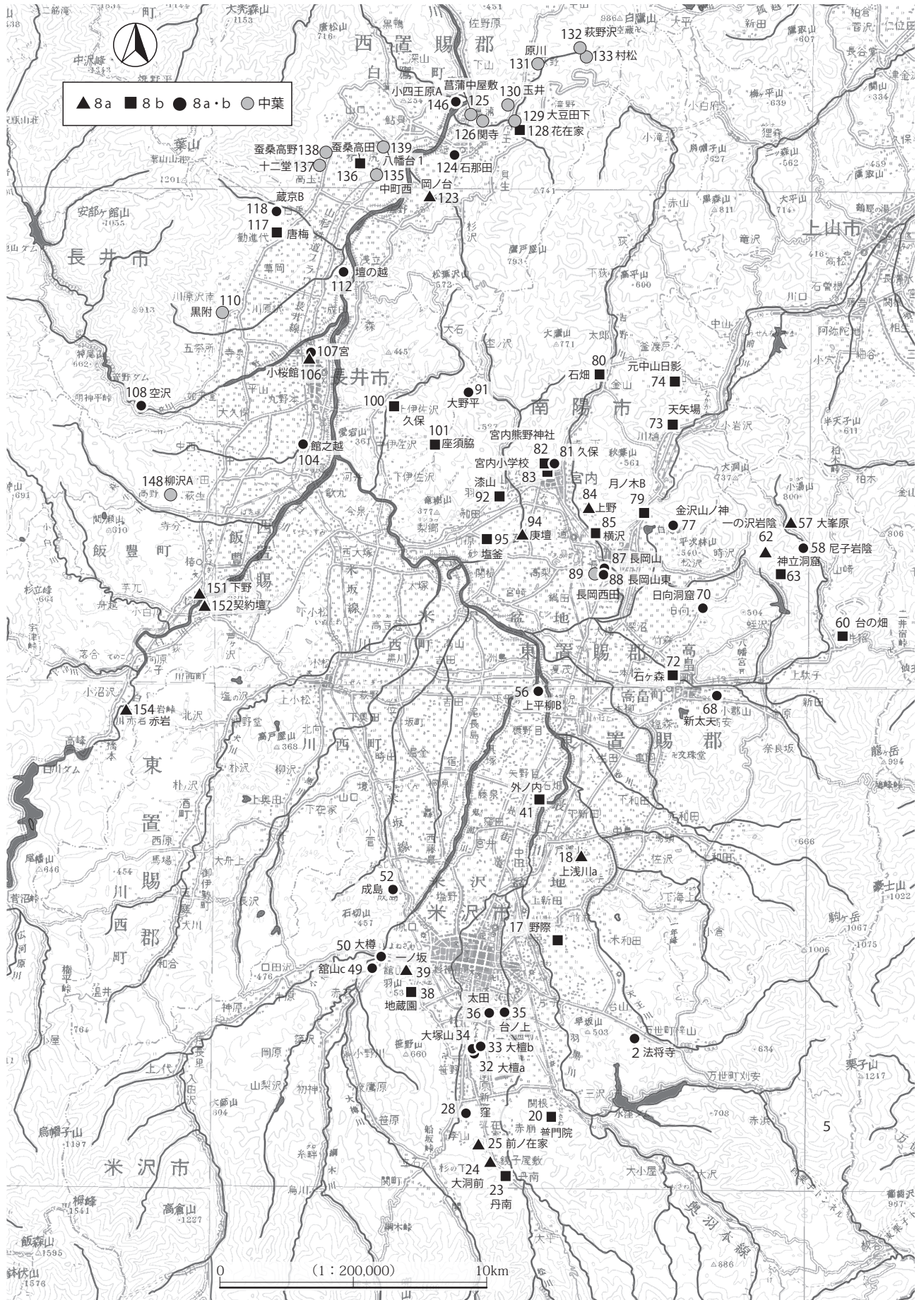


図5 縄文時代中期中葉の遺跡分布

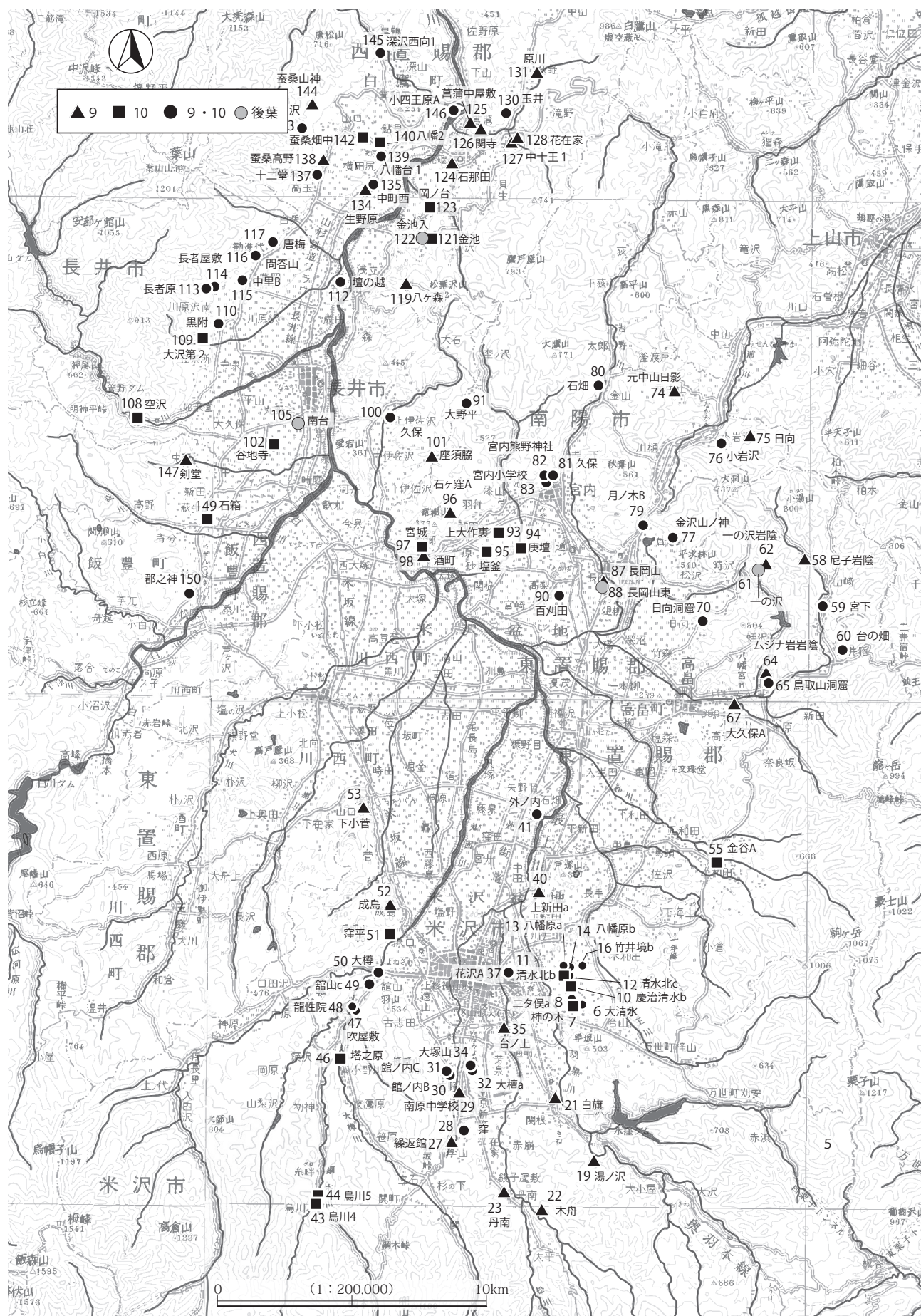


図6 縄文時代中期後葉の遺跡分布

63

表5 最上川上流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高(m)	河川	7a	7b	8a	8b	9	10	初期	後期	遺構/出土遺物/備考	文献
1	202-382	上窪 (1次) (2次)	米沢市万世町梓山字上窪	扇状地(上位)	296	梓川								◎	土坑・包含層/土器・石器・土偶(後期前葉)・三角形土製品/石組遺構(南境1・墓の可能性)・埋設土器2(南境1)・包含層/土偶(後期前葉～中葉)/	米沢市42集 米沢市47集
2	202-337	法将寺 (1次) (2次)	米沢市万世町梓山字荏代	山地・丘陵地(山腹・山麓緩斜面)	300	梓川		○		●					竪穴住居1(8b)・掘立柱建物(中期中葉)・土坑・埋設土器3(中期中葉)/土器・石器・土偶1(中期中葉)・玉1/前期初頭・前葉の住居跡3土壌層8・土坑・埋設土器1(以上中期中葉)/土器・石器/中期中葉の墓域/土器片・主体は前期前葉・小規模集落やキャンプサイト	米沢市12集 米沢市37集 山理文151集
3	202-375	町在家	米沢市万世町梓山字田ノ上	山地・丘陵地(山腹・山麓緩斜面)	297～305	梓川								-		山理文156集
4	202-405	稲荷山館跡	米沢市万世町梓山字稲荷山	山地・丘陵地(山腹・山麓緩斜面)	295～298	梓川								○		山理文169集
5	202-408	山ノ下	米沢市万世町桑山字山ノ下	山地・丘陵地(山腹・山麓緩斜面)	283～289	梓川	○							-	陥穴3(時期不明)・埋設土器3(時期不明)・土坑・ビット(大木7a・7b・後期前葉)/土器・石器・三脚石器	米沢市17集
6	202-446	大清水	米沢市万世町桑山字柿の木	扇状地(上位)	262	梓川					●			○	竪穴住居5(大木9～10)・掘立柱建物1(中期)・埋設土器3・土坑・陥穴・焼成遺構3(中期)/	米沢市6集 米沢市8集
7	202-447	柿の木	米沢市万世町桑山字柿の木3321他	扇状地(上位)	262	梓川						○		-	土坑/土器・石器/	米沢市42集
8	202-451	二タ俣 二タ俣267他	米沢市万世町桑山字柿の木3321他・堂森	扇状地(上位)	261	梓川					○				住居跡(中期)・土坑(中期末)/土器・石器/	米沢市1975・集24集
9	202-497	慶治清水a	米沢市大字堂森字慶治清水	扇状地(下位)	257	梓川								-	土器・石器/	米沢市1975・集24集
10	202-489	慶治清水b	米沢市大字堂森字慶治清水	扇状地(下位)	255	梓川						◎		○	住居跡(中期)・土坑(中期末)/土器・石器/	米沢市1975・集24集
11	202-503	清水北B	米沢市万世町牛森字清水北	扇状地(下位)	255	梓川						◎		◎	土坑(中期末・後期前葉)/編取1式土器・石器	米沢市1975・集24集
12	202-506	清水北C	米沢市万世町牛森字八幡原5277-14	扇状地(下位)	256	梓川					◎				住居跡1(大木10)・土坑/土器・石器/早期(大寺II式)住居1と復元土器	米沢市1975・集24集
13	202-515	八幡原a	米沢市大字堂森字八幡原	扇状地(下位)	254	梓川						◎			住居跡・土坑(中期末)・埋設土器2(中期末)・溝状遺構・溝状集石遺構/土器・石器・石棒(中期)・球状耳飾(前期)・遺物150箱/早期・前期あり	米沢市1975・集24集
14	202-518	八幡原b	米沢市万世町牛森字八幡原	扇状地(下位)	254	梓川						○			住居跡3(大木9～10)・土坑・埋設土器(大木9～10)/土器・石器・球状耳飾(前期)・遺物20箱/	米沢市1975・集24集
15	202-373	竹井境a	米沢市大字竹井字玉ノ木	扇状地(下位)	254	梓川								◎	大型集石遺構1・土坑・埋設土器2(以上中期・後期)/集石遺構から後期前葉と思われる土偶出土・石棒/	米沢市1976
16	202-532	竹井境b	米沢市大字竹井字玉ノ木	扇状地(下位)	257	梓川					○	○		◎	住居跡(南境1)・配石遺構(南境1)/土器・石器・三脚石器・石棒・ハート形土偶・腕輪形土製品・耳飾・三角形垂飾品/大型集石遺構1・石組遺構1・地床炉・土坑(以上中期・後期)/土偶/土器/主体は後期末から晩期	米沢市1976
17	202-556	野際	米沢市大字竹井字野際	扇状地(下位)	245	梓川									/土器/主体は後期末から晩期	米沢市90集
18	202-002	上・刈川a	米沢市大字刈川字平江壇2055他	河間低地	230	梓川									竪穴住居5(大木8a)/土器・石器/	米沢市13集
19	202-144	湯ノ沢	米沢市大字間根字湯ノ上沢23130他	山地・丘陵地(山腹・山麓緩斜面)	360	羽黒川					○				/石棒・石鏃・石斧・石皿/	県史考古資料
20	202-184	普門院	米沢市大字間根字坊住上13927他	山地・丘陵地(山腹・山麓緩斜面)	315～325	羽黒川		○							/石棒・石斧・石鏃・剥片他/	県史考古資料・米沢市1974
21	202-235	白旗	米沢市大字三沢字白旗26110-7他	扇状地(上位)	295	羽黒川									/土器/主体は前期末	米沢市13集
22	202-104	木舟	米沢市大字赤副字貫船五21734他	台地(低位段丘面)	400	松川					○				/石斧・石鏃・石鏃/	県史考古資料
23	202-125	丹南	米沢市大字幸山字長谷湯760-1他	丘陵地	390	松川					○				/土器・石器/	米沢市25集
24	202-131	大洞前	米沢市大字幸山字銭小屋敷下1545他	扇状地(上位)	363	松川					○				/土器・石器/	米沢市25集
25	202-147	前ノ在家	米沢市大字幸山字前ノ在家2743他	山地・丘陵地(中・急斜面)	333	松川					○				/土器・石器/	米沢市25集

表 6 最上川上流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	中期				後期		遺構 / 出土遺物 / 備考	文献		
							7a	7b	8a	8b	9	10	初頭	南 1	南 2	
26	202-140	坂下	米沢市大字李山字東坪穴 7407 他	扇状地 (上位)	335	松川								○		土器・石器 / 米沢市 25 集
27	202-158	緑返館	米沢市大字李山字長峰巻山 10794-4 他	丘陵地	355	松川					○					竪穴住居 1 (大木 9) ・土坑 / 土器・石器 / 米沢市 37 集
28	202-175	窪	米沢市大字李山字辻 6850-1 他	扇状地 (上位)	306 ～ 308	松川			●	●	●	●				竪穴住居 10 (大木 8a-1・8b-1・9c・10-1) ・石組炉 2 ・馬蹄形石組炉 3 ・ 複式炉 2 ・土坑・埋設土器 4 ・配石 / 土器・石器・遺物 15 箱 / 『普門院遺跡外 3 遺跡概観』・ 『南原のあゆみ』 米沢市 25 集
29	202-234	南原中学校	米沢市大字李山字遠林 9147-4 他	扇状地 (上位)	286	松川					○					土器が大量に出土 / 米沢市 25 集
30	202-250	館ノ内 B	米沢市笹野本町字館ノ内 6866 他	山地・丘陵地 (山腹・山麓緩斜面)	270	松川					○	●	○			竪穴住居 1 (大木 10) / 土器・石器・石棒 (時期不明) / 前期前葉の住居跡 2 棟あり 米沢市 32 集
31	202-260	館ノ内 C	米沢市笹野本町字館ノ内 6859 他	山地・丘陵地 (中・急斜面)	290	松川					○	○	○			土器・石器 / 米沢市 25 集
32	202-289	大槽 a	米沢市大字笹野字大槽三 1309 他	扇状地 (上位)	272	松川			○	○	○	●				竪穴住居 2 (大木 10) ・埋設土器 3 / 土器・石器・土偶・匙状土製品 / 米沢市 23 集
33	202-314	大槽 b	米沢市大字笹野字大槽三 949 他	扇状地 (上位)	270	松川			○	○	○					竪穴住居 5・焼土 7・土坑・ピット (遺構は前期末) / 土器・石器・土製耳飾 3 (前期) / 103 集
34	202-301	大塚山 (1 次) (2 次) (4 次)	米沢市笹野本町字大塚 1410 他	扇状地	271	松川		○	○	○	○	●	○			竪穴住居 1 (大木 10) ・土坑・埋設土器 2 (大木 10) / 土器・石器 / 土坑 / 主体は前期初頭 / 米沢市 23 集 米沢市 61 集
35	202-401	台ノ上 (1 次) (2 次) (3・4 次)	米沢市菅妻町 55-2 他	谷底平野・汎 原	265	松川	●	●	●	●	○		○			土坑・石組炉 1・埋設土器 1 (中期中葉) / 三脚石器 3・石棒 / 平成 3 年調査 米沢市 32 集 米沢市 37 集 米沢市 55 集
36	202-410	太田	米沢市太田町 5 丁目	扇状地 (上位)	262	松川					○					包含層 (7a ～ 8b) / 土偶 3 ・三脚石器 6 ・土製品・石製品・遺物 50 箱 / 平成 4 年調査 米沢市 37 集
37	202-539	花沢 A (1 次) (2 次)	米沢市花沢町一丁目 2517-2 他	自然堤防	244 ～ 246	松川					●	●		○		竪穴住居 58 (7b ～ 8a) ・土坑・埋設土器 23 ・石組炉 10 ・土器埋設石組炉 4 ・地床炉 22 ・竪穴状遺構 15 ・ピット他 / 五領ケ台式・唐草文系土器・土偶 99 ・三脚型土製品・三脚型土製品・耳飾・土笛・スプーン型土製品・三脚石 器 89 ・三脚石製品・有孔環状石製品・石棒 68 ・岩偶 1 / 米沢市 69 集 米沢市 77 集
38	202-442	地蔵園	米沢市遠山町字地蔵園 1470 ・ 1471 他	山地・丘陵地 (山腹・山麓緩斜面)	280	蛭川										竪穴住居 5 (8a-3・8b-1) ・土坑 (7b ～ 8a) ・埋設土器 1 / 土偶 1 ・三角形 状土製品・石棒 1 ・石棒未完成品 5 / 米沢市 69 集 米沢市 77 集
39	202-500	一ノ坂	米沢市矢来一丁目 1073-4 他	山地・丘陵地 (山腹・山麓緩斜面)	259 ～ 261	松川										竪穴住居 1 ・土坑 (中期前葉) ・埋設土器 2 (大木 8a-1) / 土偶 1 (8a) ・後 期初頭土器あり / 米沢市 25 集
40	202-647	上新田 a	米沢市大字上新田字榎台 1055 他	扇状地 (上位)	262	松川					○					竪穴住居 71 (7a ～ 8b) ・土坑・埋設土器 90 ・列石遺構 2 ・石組炉 9 ・地床 炉 9 ・石組炉 1 他 / 北陸系土器・阿玉合式・土偶 169 ・三角形土製品 278 ・土 製耳飾 29 ・土製管玉 1 ・腕輪・三脚土製品・岩偶 1 ・三脚石製品 13 ・三脚石 器 163 ・石棒 / 米沢市 25 集
41	202-284	外ノ内	米沢市花沢町一丁目 2517-2 他	自然堤防	244 ～ 246	松川					●	●		○		土器・石器 / 米沢市 23 集
42	202-117	烏川 3	米沢市大字築沢字外ノ内東 3060 他	河間低地	222	最上川										竪穴住居 1 (大木 10) ・掘立柱建物 2 (中期末) ・土坑 (大木 9・10) ・埋 設土器 13 (中期後・末葉) / 石剣 (大木 10) ・石棒 / 米沢市 91 集
43	202-110	烏川 4	米沢市大字築沢字古壇	段丘 III	450	細木川										土坑・石製品・石匙・石碓 / 米沢市 25 集
43	202-110	烏川 4	米沢市大字築沢字古壇	段丘 III	442	細木川										土坑・ピット・性格不明遺構 (中期末～後期) / 三十稲場式・石器 / 米沢市 25 集
38	202-442	地蔵園	米沢市遠山町字地蔵園 1470 ・ 1471 他	山地・丘陵地 (山腹・山麓緩斜面)	280	蛭川					○					埋設土器 1 (南境 1) / 土器・石器 / 主体は前期 米沢市 30 ・ 35 ・ 38 ・ 40 ・ 48 集
39	202-500	一ノ坂	米沢市矢来一丁目 1073-4 他	山地・丘陵地 (山腹・山麓緩斜面)	259 ～ 261	松川					○					土器 / 米沢市 34 集
40	202-647	上新田 a	米沢市大字上新田字榎台 1055 他	扇状地 (上位)	232	最上川					○					竪穴住居 9 (大木 7b) / 土器・石器・三脚石器 1 (7b) / 米沢市 28 集
41	202-284	外ノ内	米沢市蓮田町蓮田字外ノ内東 3060 他	河間低地	222	最上川		●			○	○	-	-		土坑・ピット (後期前葉) ・性格不明遺構 / 土器・石鍬・剥片 / 米沢市 28 集
42	202-117	烏川 3	米沢市大字築沢字烏川北	自然堤防	450	細木川										土坑・ピット (後期前葉) ・性格不明遺構 / 土器・石鍬・剥片 / 米沢市 28 集
43	202-110	烏川 4	米沢市大字築沢字古壇	段丘 III	442	細木川						◎	◎	◎		土坑・ピット・性格不明遺構 (中期末～後期) / 三十稲場式・石器 / 米沢市 28 集

表7 最上川上流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	中期					後期		遺構 / 出土遺物 / 備考	文献			
							7a	7b	8a	8b	9	10	初頭	南 1	南 2			
44	202-119	烏川 5	米沢市大字薬次字糸軒向	段丘Ⅲ	430	綱木川						◎	◎	◎		石棺遺構 3（後期）・土坑・性格不明遺構（中期末～後期） / 石棒・遺物 10 箱 / 石組遺構は石棺墓で後期（詳細時期不明） / 土器 /	県 190 集・県分布 18	
45	202-259	小野川町 c	米沢市小野川町字堂ノ前 2312 他	段丘Ⅲ	331 ～ 334	大樽川										竪穴住居 5（中期末葉）・掘立柱建物 3（中期末葉）・土坑 / 土器・石剣・ヒスイ製とされる重飾品（中期末） / 墓壇の可能性ある土坑あり・中移約集落・前期の遺構あり	米沢市 32 集	
46	202-309	塔之原	米沢市小野川町字塔ノ原 2663 他	段丘Ⅲ	322 ～ 320	大樽川						●				竪穴住居 5（中期末葉）・掘立柱建物 3（中期末葉）・土坑 / 土器・石剣・ヒスイ製とされる重飾品（中期末） / 墓壇の可能性ある土坑あり・中移約集落・前期の遺構あり	米沢市 43 集	
47	202-432	吹屋敷	米沢市赤芝町字古屋敷 1956 他	段丘Ⅲ	299	大樽川					○	○	○	○		/ 土器・石器 / 龍形陪道跡と同時に存在	米沢市 25 集	
48	202-436	龍性院	米沢市赤芝町字堂ノ下 101 他	段丘Ⅲ	295	大樽川						○	○	○		/ 土器・石器 / 吹屋敷遺跡と同時に存在	米沢市 25 集	
49	202-498	釜山 c	米沢市釜山六丁目 6550-2 他	段丘Ⅲ	270	大樽川			○	○	○	◎	○	○		/ 土器・石器 /	米沢市 87 集	
50	202-527	大樽 （試掘・S63） （1 次） （2 次） （3 次） （4 次） （5 次） （6 次） （7 次） （8 次） （9 次） （センター調査） （県立合）	米沢市釜山四丁目 6502-2 他	段丘Ⅲ	276	大樽川			◎	◎	○	○	○	●	●	◎	/ 土器・石器 / 竪穴住居 1・土坑（8b）・ / 土器・石器 / / 石器 / 中近世の遺構が主体 土坑・ピット / 細取式・称名寺式・三十稲場式・堀之内Ⅰ式 / 竪穴住居 2（後期初頭）・土坑・埋設土器 3 / 三十稲場式・細取式・堀之内Ⅰ・2 式・ / 後期中葉の配石・集石遺構あり 竪穴住居 1（後期）・土坑 / 三十稲場式・細取式・遺物 10 箱 / 竪穴住居 3（内 1 棟は後期前葉、他は不明）・土坑 / 細取式・三十稲場式・遺物 7 箱 / 土坑（後期） / 土器・石器 / 土坑（後期） / 土器・石器 / 土坑（後期） / 土器・石器 / 土坑（大木 8a・後期前葉）・埋設土器 3・集石 4 / 土偶 1（大木 8a）・石棒 2・石製装飾品 1・三十稲場式・遺物 93 箱 / 竪穴住居 1（後期前葉）・土坑（中期中葉・後期初頭～前葉）・埋設土器 1（十腰内Ⅰ） / 三十稲場式・遺物 8 箱	米沢市 25 集 米沢市 61 集 米沢市 62 集 米沢市 62 集 米沢市 65 集 米沢市 65 集 米沢市 65 集 センター 67 集
51	202-599	窪平	米沢市広幡町成島字窪平 2107-54 他	段丘Ⅰ	295	鬼面川		○				○				腰内Ⅰ） / 三十稲場式・遺物 8 箱 / 土器 / 主体は前期	米沢市 46 集	
52	202-626	成島 （試掘） （H25）	米沢市広幡町成島字窪平山 2120-9 他	段丘Ⅲ	250	鬼面川	◎	◎	○	○						/ 三脚石器大量・土玉 / / 三脚石器・三角石製品 / 土坑・柱穴（中前期葉分） / 土偶 3（中前期葉）・三脚石器 58・三角石製品 4・石棒・石製品 / / 石器 /	県史考古資料 米沢市 102 集 米沢市 103 集	
53	202-285	下小菅	米沢市大字小菅字大神 1155-26 他	山地・丘陵地（山腹・山麓緩斜面）	233	鬼面川						○				/ 石器 /	県史考古資料	
54	381-242	馬頭上光田（土光田 A）	高畠町大字馬頭字上光田	河間低地	230	小黒川	◎	◎								住居跡や土坑状のプラン検出・包含層 / 土器・石器・土偶（中前期葉）・線刻模・三脚石器 / 県では上光田 A	高畠町 3 集・町史 考古資料編	
55	381-252	金谷 A	高畠町大字二和田字金谷	扇状地（下位）	235	本宮川						●		●	●	竪穴住居（大木 10・I・後期前葉-2）・土坑 / 土器・石器・石棒 / / 土器・石器・土偶（時期不明） /	高畠町 3 集・町史 考古資料編	
56	381-092	上平柳 B	高畠町大字上平柳字上平柳	谷底平野	215	最上川・鬼面川					○	○				/ 土器・石器・土偶（時期不明） / / 土器・石器・土偶（中前期半）・耳栓 / / 中前期東北陸系土器・土偶（中前期半）・耳栓 / 中包含層・獣骨・骨角器（時期不明） / 草創期～弥生までの遺物あり	町史考古資料編	
57	381-286	大峯原	高畠町大字二井宿東小湯	扇状地	360	小湯川	○	○	○							/ 土器・石器・土偶（中前期半）・耳栓 / / 中前期東北陸系土器・土偶（中前期半）・耳栓 / 中包含層・獣骨・骨角器（時期不明） / 草創期～弥生までの遺物あり	町史考古資料編	
58	381-290	尼子岩簷	高畠町大字二井宿小湯 14	中起伏山地	350	小湯川		○	○	○	○	○	○	○		/ 土器・石器・土偶（中前期半）・耳栓 / / 中前期東北陸系土器・土偶（中前期半）・耳栓 / 中包含層・獣骨・骨角器（時期不明） / 草創期～弥生までの遺物あり	町史考古資料編 町史考古資料編	
59	381-307	宮下	高畠町大字二井宿字宮下	扇状地	310	屋代川						○				/ 土器・石器・土偶（中前期半）・耳栓 / / 中前期東北陸系土器・土偶（中前期半）・耳栓 / 中包含層・獣骨・骨角器（時期不明） / 草創期～弥生までの遺物あり	町史考古資料 山理文 47 集	
60	381-025	台の畑	高畠町大字二井宿筋	扇状地	290	屋代川			◎	◎	●	●	◎	◎		/ 土器・石器・土偶（中前期半）・耳栓 / / 中前期東北陸系土器・土偶（中前期半）・耳栓 / 中包含層・獣骨・骨角器（時期不明） / 草創期～弥生までの遺物あり	高畠町 2 集・町史 考古資料編	
61	381-299	一ノ沢	高畠町大字安久津一の沢	扇状地	310	一ノ沢			-							/ 土器・石器・土偶（中前期半）・耳栓 / / 中前期東北陸系土器・土偶（中前期半）・耳栓 / 中包含層・獣骨・骨角器（時期不明） / 草創期～弥生までの遺物あり	町史考古資料編	
62	381-296	一ノ沢岩簷	高畠町大字安久津一の沢	中起伏山地	350	一ノ沢			○	○	○	○	○	○		/ 土器・石器・土偶（中前期半）・耳栓 / / 中前期東北陸系土器・土偶（中前期半）・耳栓 / 中包含層・獣骨・骨角器（時期不明） / 草創期～弥生までの遺物あり	町史考古資料編	

表 8 最上川上流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	中期				後期		遺構 / 出土遺物 / 備考	文献	
							7a	7b	8a	8b	9	10			初頭
63	381-303	神立洞窟	高島町大字安久津字大神立	中起伏山地	350	蛭沢川				○				包含層 / 土器・石器・骨角器・獣骨・人骨 (中期以外)・草創期の遺物・キヤンブサイト	町史考古資料編
64	381-047	ムジナ岩岩陰	高島町大字安久津清水山	小起伏山地	250	蛭沢川					○			包含層 / 土器・石器 / 草創期後半の遺物	町史考古資料編
65	381-056	鳥取山洞窟	高島町大字安久津清水山	小起伏山地	280	鷹代川	○				○	○		包含層 / 土器・石器 / 第一洞窟	町史考古資料編
66	381-157	鶴羽口	高島町大字金原鶴羽沢	扇状地	270	下有無川	○							配石 (時期不明) / 土器 (7a・後期末・晩期末) /	町史考古資料編
67	381-105	大久保 A	高島町大字安久津字大久保	扇状地 (下位)	230	下有無川						○		/ 土器・石器 /	町史考古資料編
68	381-112	新太夫	高島町大字高島字新太夫ほか	扇状地 (下位)	233	鷹代川				○	●			竪穴住居 1・埋設土器 2・土坑・河川跡 (遺構は 8b 式) / 土偶 1・石棒 3 (遺物は中期中葉) /	高島町 9 集
69	381-203	小箱岩洞窟	高島町大字時沢字大師森	中起伏山地	260		○						○	/ 三十稲場式・石器 / 草創期が主体	町史考古資料編
70	381-309	日向洞窟	高島町大字竹森姥ヶ作山	小起伏山地	220				○	○	○	○		包含層 / 三十稲場式 / 草創期が主体	町史考古資料編・ 県史考古資料
71	381-018	大立洞窟	高島町大字高島字大立山	小起伏山地	270	鷹代川	○							包含層 / 土器・石器 / 主体は草創期遺物	山形県・県博 1976・1977・ 1978
72	381-063	石ヶ森	高島町大字高島字石ヶ森	自然堤防	220	鷹代川					○			/ 土器 / 主体は後期後葉・晩期	町史考古資料編
73	213-214	天矢場	南陽市大字川崎字天矢場	扇状地	285 ~ 288	前川				○				陥穴 (時期不明) / 土器・石器 / 狩猟場	山理文 174 集
74	213-118	元中山日影	南陽市元中山字日影	中起伏山地	310	前川					○			/ 土器・石器 /	南陽市史考古資料 編
75	213-036	日向	南陽市小岩沢日向	小起伏山地	330	前川						○		/ 土器・石器 /	南陽市史考古資料
76	213-044	小岩沢	南陽市小岩沢字水上 1501 他	扇状地	285	北川					○	○		/ 土器・石器 /	南陽市史考古資料 編
77	213-017	金沢山ノ神	南陽市赤湯字十部一山 2836-87 ~ 94 他	中起伏山地	240 ~ 250	(吉野川)	-	-	○	○	○			/ 土器・石器・石棒 /	南陽市史考古資料 編
78	213-090	十分一山	南陽市赤湯字十部一山 2836-69 他	中起伏山地	223	(吉野川)		○						/ 土器・石器 /	南陽市史考古資料 編
79	213-098	月ノ木 B	南陽市大字北町字月ノ木前 2462-1 他	小起伏山地	217	吉野川				○	○	○		包含層 / 土器 /	県 135 集
80	213-124	石畑	南陽市金山字石畑 3519 ほか	扇状地	290	吉野川					○	○	○	土坑・柱穴・性格不明遺構 (後期・晩期) / 石棒・石刀 (後期・晩期)	山理文 164 集
81	213-008	久保	南陽市宮内字久保 3462-1 ほか	扇状地	255	吉野川	○	○	○	○	○	○		竪穴状遺構 1・土坑 / 土器・石器類 /	南陽市史考古資料 編
82	213-201	宮内熊野神社敷地内	南陽市宮内字坂町 3476-1 ほか	小起伏山地	260	吉野川				○	○	○		/ 土器・剥片 /	南陽市史考古資料 編
83	213-085	宮内小学校敷地内	南陽市宮内字坂町 3415 ほか	扇状地扇頂部	265	吉野川		○			○	○		/ 新崎式 /	南陽市史考古資料 編
84	213-095	上野 (1 次) (2 次)	南陽市大字上野字上野 4 ほか	段丘 II	235 ~ 237	吉野川			◎					石棒 (中期) 性格不明遺構 / 土器片・石器・土偶 1 /	山理文 152 集 山理文 162 集
85	213-027	横沢	南陽市三間通字横沢 731 ~ 720 他	自然堤防	225	鷹代川					○		-	/ 土器 /	南陽市史考古資料 編
86	213-120	諏訪前	南陽市三間通字横越 194 他	後背低湿地	221	吉野川	○							/ 土器・三脚石器 /	県 102 集・南陽市 史考古資料編
87	213-200	長岡山	南陽市長岡小生堂・金屋神	小起伏山地	220	吉野川	○	○	○	○	○			/ 新崎式・馬高式・三脚石器 2・土偶 6 (中期前半)・キノコ形土製品 1・岩偶 1・ 珠状耳飾 1・遺物 86 箱 /	南陽市史考古資料 編・南陽市 7 集
88	213-103	長岡山東	南陽市長岡山字西田中・西田中南	小起伏山地	216	吉野川	○	○	○	○	-	-		/ 土器・石器・土偶 1 (中期前半)・耳栓 1・三脚石器 2・遺物 25 箱 /	南陽市史考古資料 編・南陽市 7 集
89	213-007	長岡西田	南陽市長岡西田	後背低湿地	216	吉野川			-	-				/ 土器・石器 /	南陽市史考古資料 編
90	213-059	百刈田	南陽市大字島貫字百刈田	後背低湿地・自然堤防	自 217	吉野川					●	◎		竪穴住居 6 (大木 9・4 棟)・土坑 / 石製品菅玉 (大木 9)	山理文 184 集

表9 最上川上流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	中期				後期		遺構 / 出土遺物 / 備考	文献			
							7a	7b	8a	8b	9	10	初頭	南 1	南 2		
91	213-113	大野平	南陽市漆山字須刈田 3831-47 他	扇状地	460	織機川	○	○	○	○	○	○				/新保・新崎式・石器 / 早期・前期の住居跡	南陽市 2 集・南陽市史考古資料編
92	213-180	漆山	南陽市漆山字西屋敷三 1806 他	段丘Ⅲ	245	織機川					○					/土器・石器 /	南陽市史考古資料編
93	213-058	上大作裏	南陽市大字砂塚字大作前ほか	自然堤防	220	織機川		○				○				遺構は早期・前期 / 土器片 /	山理文 176 集
94	213-202	庫壇	南陽市大字最瀬	自然堤防	223	織機川			○			○	-			包含層 (8a)・土坑 (時期不明) / 土器・石器 /	山理文 161 集
95	213-191	塩釜	南陽市砂塚字塩釜 2606-1	自然堤防	217	織機川					○	○				/土器 /	南陽市史考古資料編
96	213-077	石ヶ窪 A	南陽市竹原字石ヶ窪	小起伏山地	320	(最上川)						○				/土器・石器 /	南陽市史考古資料編
97	213-012	宮城	南陽市梨郷字宮城 806 他	小起伏山地	230	最上川										/土器・石器 /	南陽市史考古資料編
98		酒町	南陽市大字梨郷字酒町 2	河間低地	205	最上川						○				/土器 /	南陽市 8 集
99	402-193	岩穴	長井市上伊佐沢岩穴	小起伏山地	260	逆川										/土器 /	県遺跡台帳
100	209-213	久保	長井市大字上伊佐沢字久保	小起伏山地	240	逆川					○	○				/土器・石器・遺物 3 箱 /	長井市 29 集
101	209-061	座須脇	長井市成田字塔ノ下	小起伏山地	260	逆川					◎					土坑・ピット (大木 8b～9) / 土器・石器 / 前期の遺構あり	長井市 10・25 集
102	209-078	谷地寺 (H17) (H18)	長井市九野本字最野	河間低地	212	最上川						○	○	○		/土器・石器・土偶 1 (中期末～後期初)・遺物 3 箱 /	長井市 26 集
103	209-040	小山	長井市九野本字小山	谷底平野	205	最上川										/土器・石器 /	長井市 27 集
104	209-038	龍之越	長井市大字泉字龍之越	自然堤防	208	福田川	○	○	◎	○			-			遺物包含層 / 土器・石器 / 加曾利 B2 式が主体	山理文 104 集
		(H4) (H12)														土器・石器・石棒 / 市教委により S45・46・49 年に発掘調査実施	県遺跡台帳
																土坑 //	県分布 13
																土坑・柱穴 / 土器・石器 /	県分布 14
105	209-069	南台	長井市九野本字最野	河間低地	205	最上川										遺構あり / 土器・石器 / 遺跡台帳整備	長井市 8 集
106	209-194	小桜館	長井市高野町・十日町・新町・大町地内	河間低地	200	野川・最上川		○			-					/土器 /	長井市 19 集
107	209-188	宮	長井市宮十日町	河間低地	200	野川	○	●		○						竪穴住居 7 / 土器 /	長井市 28 集
		(H14) (H16) (IV次) (V次)														/ 土器 /	長井市 29 集
																/ 中期前～中葉土器 / 昭和 30 年代および昭和 53 年に調査実施	県史考古資料・県遺跡台帳
																竪穴住居 1・土坑・性格不明遺構 1・包含層 (以上 7b～8a) / 新崎式・石器・土偶 2・石製重飾品 1・三脚石器 2・遺物 15 箱 /	長井市 22 集
																/土器・石器・遺物 1 箱 /	長井市 25 集
																竪穴遺構・性格不明遺構・ピット (大木 7b～8a) / 土器・石器・土製耳飾 /	長井市 26 集
																土坑・性格不明遺構・ピット・包含層 (大木 7b～8a) / 土器・石器・遺物 1 箱 /	長井市 28 集
108	209-221	空沢	長井市寺泉字空沢西・入野川向	段丘Ⅲ	268～272	野川			◎	◎		●	◎	◎	◎	竪穴住居 1 (大木 10)・掘立柱建物 (晩期)・土坑 (大木 10～後期前葉)・陥穴 (早期前) / 馬高式・三十稲場式・遺物 80 箱 / 狩猟場やキャンプサイト	センター 144 集
109	209-190	大沢第 2	長井市寺泉字上郷 4493	山地・丘陵地 (中・急斜面)	260	野川										土坑 (大木 8a)・陥穴・包含層 //	県分布 34 集
110	209-164	黒附	長井市川原沢字黒附	段丘Ⅲ	240	水無川						○				/土器・石器 /	県遺跡台帳
111	209-168	飯沢北館跡	長井市大字成田字北館	河間低地	199	野川							◎			耳飾 /	県遺跡台帳・長井市 31 集・32 集
112	209-125	壇の越	長井市上伊佐沢字善並	自然堤防	250	水無川					○	○				/土器・石器 /	県分布 25
113	209-130	長者原	長井市大字草岡字長者原	段丘Ⅲ	280	北の沢川					◎	○				集石 (時期不明) / 土器・石器 /	県遺跡台帳
114	209-127	長者屋敷 (1 次)	長井市大字草岡字長者屋敷	段丘Ⅲ	269							○				遺跡台帳	長井市 14 集・県遺跡台帳
																竪穴住居 5 (中期末)・土坑 / 遺物 20 箱 /	長井市教委 1979

表10 最上川上流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録 番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	中期				後期		遺構、出土遺物／備考	文献			
							7a	7b	8a	8b	9	10	初頭	南 1	南 2		
114		長者屋敷（2次） （3次） （H9） （H10） （H24）	長井市草岡字中里	段丘Ⅲ	240	久川					○	○	○			埋設土器・集石遺構（中期末）／土器・石器／ 竪穴住居 6・集石（中期後半～未定）／土器・石器／ 集石（時期不明）／土器・石器／ 竪穴住居 4・埋設土器 1・半截木柱遺構 4（以上大木 10）・土坑・集石遺構 6（時期不明）／土器・石器／ 土坑／土器・石器／ 土坑／土器・石器／ 配石遺構 4・土坑・ピット（中期末～後期前葉）／三十稲場式・細取 1 式・石器・遺物 5 箱／	長井市教委 1980 長井市教委 1981 長井市 15 集 長井市 16・18 集 長井市 33 集 長井市 30 集
115	209-133	中里 B	長井市草岡字中里	扇状地	240	草岡川？					○	●				土器・石器・遺物 1 箱／遺訪台帳整備 竪穴住居 2（大木 10）・土坑・炉跡 1／土器・石器／ 土坑／石器／	長井市 20 集 長井市 24 集 長井市 25 集
116		間谷山 （H13） （H15） （H16）	長井市勸進代字草岡	扇状地	240						○	◎	◎	◎	◎	長井市 1983・長井市史第 1 巻 長井市 11 集 長井市 30 集	
117	209-029	唐梅 （H6） （H21） （H22）	長井市勸進平字唐梅・飯沢	扇状地	240						○	◎	◎	◎	◎	長井市 1983・長井市史第 1 巻 長井市 11 集 長井市 30 集	
118	209-068	蔵京 B	長井市勸進平字蔵京	段丘Ⅱ	276	（麓上川）			○	○						石鏃・石匙／県史に記載された「蔵京遺跡」を蔵京 B 遺跡に該当するものと解釈した ／打製石斧／	県史考古資料・県史考古資料 遺訪台帳
119	402-046	八ヶ森	白鷹町大字浅立字八ヶ森 4225	小起伏山地	340	（麓上川）						○				／打製石斧／	県史考古資料
120	402-041	馬冷湯	白鷹町大字浅立字馬冷湯	小起伏山地	250	最上川								○		／大木 10 式の完形深鉢土器／	県史考古資料
121	402-021	金池	白鷹町大字群藤字田中	扇状地	200	最上川					○					／貯藏穴／石鍬／	白鷹町史上巻
122	402-020	金地入	白鷹町大字群藤字金地入	小起伏山地	200	最上川					-					／竪穴住居 2（大木 10）・土坑／弥生・古墳・平安時代の複合遺跡	白鷹町史上巻
123	402-077	岡ノ台	白鷹町大字群藤字岡ノ台	自然堤防	189～193	最上川	○	○	○	○		●		○		住居跡 3／石器・土器・土偶・貝殻／	山埜文 15 集
124	402-116	石郡田	白鷹町大字荒砥甲字南上野 371	小起伏山地	240	貝生川					○	○				荒砥町誌・白鷹町史上巻	
125	402-023	葛蒲中屋敷	白鷹町大字葛蒲字中屋敷 1303	段丘Ⅲ	200	最上川			-	-	○					／打製石斧・石鏃・石棒（中期）／ ／打製石斧・石鏃／	白鷹町史上巻
126	402-099	陶寺	白鷹町大字十王字関寺 3899	扇状地	240	荒砥川			-	-	○					／打製石斧・石鏃／	白鷹町史上巻
127	402-016	中十五Ⅰ	白鷹町大字十五字中十五 4614	扇状地	260	米沢川					○					白鷹町史上巻	
128	402-044	花在家	白鷹町大字十五字花在家	扇状地	260	荒砥川					○	○				県遺訪台帳・白鷹町史上巻	
129	402-118	大豆田下	白鷹町大字十五字大豆田下 5200	扇状地	240	荒砥川			-	-						／打製石斧・石鏃・石匙／ 県遺訪台帳・県分布 15	
130	402-040	玉井	白鷹町大字十五字栗岩坂東 5976	崩積緩斜面及び地滑り滑动地塊	320	萩野川			-	-	○					白鷹町史上巻	
131	402-085	原川	白鷹町大字萩野字原川 3198	扇状地	320	萩野川			-	-	○					／打製石斧・石鏃・石匙／ ／土器／	白鷹町史上巻 県遺訪台帳
132	402-051	萩野沢	白鷹町大字萩野 3246	扇状地	480	萩野川			-	-						／打製石斧・石鏃／	白鷹町史上巻
133	402-054	杵松	白鷹町大字滝野字村松 3267	山頂・山腹緩斜面	460	萩野川			-	-						／打製石斧・石鏃・石匙・石鏃／	白鷹町史上巻
134	402-094	生野原	白鷹町大字横田尻字東生野原	扇状地	200	（麓上川）						○				／打製石斧・石鏃／ ／土器・石器／ ／土器・石器／	白鷹町史上巻 白鷹町史上巻 白鷹町 1 集 白鷹町 2 集
135	402-098	中野西	白鷹町大字横田尻字中西 1323	段丘Ⅲ	200	（麓上川）			-	-	○	○	◎	◎		／土器・磨製石斧・石匙・石鏃／	県遺訪台帳・白鷹町史上巻
136	402-117	登桑高田	白鷹町大字横田尻字高田	段丘Ⅲ	240	（麓上川）					○					／土器・磨製石斧・石匙・石鏃／ 町史上巻	県遺訪台帳・白鷹町史上巻
137	402-096	十二尊	白鷹町大字横田尻字十二尊	扇状地	280	（麓上川）			-	-	○	○				／打製石斧・石匙／	白鷹町史上巻
138	402-106	蚕桑高野	白鷹町大字横田尻字中道端 5503	丘陵地	230	（麓上川）			-	-	○					／石器・土偶（時期不詳）／	白鷹町史上巻 県遺訪台帳・県史考古資料
139	402-121	八幡台Ⅰ	白鷹町大字鮎貝字八幡台	段丘Ⅲ	220	八幡川	○		-	○	○						

表 11 最上川上流域縄文時代中期～後期前葉の遺跡

番号	県登録番号	遺跡名	所在地	地形	標高 (m)	河川	中期				後期		遺構／出土遺物／備考	文献		
							7a	7b	8a	8b	9	10			初頭	南1
140	402-010	八幡2	白鷹町大字鮎貝字八幡3・1221他	段丘Ⅲ	200～210	最上川					○		/土器／ /打製石斧・石礫／	県分布 20		
141	402-015	鮎貝八幡1	白鷹町大字鮎貝字八幡7-155	段丘Ⅲ	220	八幡川					-		/石匙／ /土器・石器・土偶・石棒／	県史考古資料 白鷹町史上巻 県遺跡台帳・白鷹町史上巻		
142	402-032	蚕桑畑中	白鷹町大字山口字畑中道下	段丘Ⅲ	210	八幡川						○				
143	402-039	横田原白ヶ沢	白鷹町大字横田原字白ヶ沢	小起伏山地	300	白ヶ沢						○	○			
144	402-036	蚕桑山神	白鷹町大字山口字南沢	扇状地	320	八幡川						○		/打製石斧・石礫・石匙／ /打製石斧・石礫／	白鷹町史上巻 白鷹町史上巻	
145	402-047	深山西向1	白鷹町大字梁山字西向	段丘Ⅲ	260	美淵川						○				
146	402-034	小四王原A	白鷹町大字高岡外ノ王山279	段丘Ⅲ	180	美淵川				○	○	○		住居跡2(大木10)/馬嵩式/ /土器・石棒(中期)・石皿・石剣・磨石・凹石・蔽石/ /土器・石器／	白鷹町史上巻 県遺跡台帳 県遺跡台帳	
147	403-070	剣堂	飯豊町大字中宇剣堂1996	山地・丘陵地(中・急斜面)	270	尻無沢						○				
148	403-050	柳沢A	飯豊町大字萩生字柳沢3083	段丘Ⅱ	250	萩生川			-	-				/土器・石器／ 住居跡1(時期不明)・埋設土器8(大木10)/大木10式新土器・三十稲場式・土偶1(後期前葉)・石棒1/ 土坑(中期後葉～後期前葉)・配石遺構(後期前葉)/三十稲場式/土坑・ピット(中期末)/遺物11箱／	県遺跡台帳 飯豊町教委 1980	
149	403-067	石箱	飯豊町大字萩生字石箱道下	扇状地	249	萩生川					○	○				
150	403-008	郡之神(1次) (2次)	飯豊町大字梶字郡之神2595-1	扇状地	243	白川					○	○	○		県23集 県191集	
151	403-048	下野	飯豊町大字小川字下野52	扇状地	240	白川				○				/土器・石器／ /土器・石器／	県遺跡台帳 県遺跡台帳	
152	403-002	契約壇	飯豊町大字小川字下野3350	扇状地	245	白川				○						
153	403-014	町下	飯豊町大字松原字町下570、572、577、580	段丘(Ⅲ)	220	白川						○	○		県57集	
154	403-062	赤岩	飯豊町大字高崎字赤岩3976・3977	山地・丘陵地(山麓緩斜面)	275	白川	○	○	○					土坑(中期前半)・陥穴(時期不明)/土器・石器 堅穴住居1(大木10)・陥穴11基(前期大木2a・中期末)・土坑(前期中葉・中期末・後期初頭)/主体大木10式土器・三十稲場式土器片・遺物27箱/一時的滞在のキャンプ地 堅穴住居1(後期前半)・土器埋設石面坑(後期初)・土坑(後期初～前葉)/新崎式・三十稲場式・称名寺式・遺物63箱/キャンプサイト・トチの美貯蔵の中期末土坑あり	県分布(15)・県155集 山埋文71集	
155	401-075	野向	小国町大字市野々字野向	段丘Ⅲ	250	横川						●	○		山埋文71集	
156	401-063	市野々向原	小国町大字市野々字向原	山地・丘陵地(中・急斜面)	252	横川		○				○	○		山埋文71集	
157	401-044	千野	小国町大字綱木箱ノ口字千野	山地・丘陵地(山腹・山麓緩斜面)	206	横川						○	○	●	山埋文71集	
158	401-039	綱木沢向	小国町綱木箱ノ口字綱木向沢	段丘Ⅲ	214	綱木沢川					-				県分布(19)	
159	401-052	蟹沢	小国町大字舟渡字蟹沢	扇状地	145	荒川					○	●	○		小国町3集	
160	401-009	谷地	小国町大字増岡字谷地他	扇状地	136	荒川	○	●				○			県63集	
161	401-095	下野	小国町大字増岡字下野	自然堤防・滑走斜面	131～132	荒川						●			石棒7点・遺物71箱/集石遺構は2つのグループ、直径10～12mの環状の構成 住居跡17(大木9・5棟・10・7棟)・土坑・埋設土器13(大木9・10)・集石遺構(大木9)/大型石棒1・環状耳飾1・垂飾品・炭化クリ/墓地を伴う中期後・末葉の集落跡 /石器・土器／	県38集
162	401-092	大下	小国町大字増岡字大下357他、大字増岡字風立401他	自然堤防	140	横川						○			県分布 8	
163	401-091	墓窪	小国町大字増岡字墓窪178他	扇状地	134～136	横川	●		○			○	●		山埋文58集	
164	401-022	龍ヶ嶽	小国町大字足野水字	段丘Ⅲ	147	足野水川	○				○	○			県分布(20)	